

# 農繁期

## レポート

令和3年 4-5月号

# 栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社

水田面積 18.4アール

保証量 玄米 828kg

形態品種 特別栽培コシヒカリ



## 生産者 三上 惇二

今年も継続していただきありがとうございます。新型コロナウイルスで生活の様子が様変わりいたしました。今年1月から雪が昨年よりも降ったものの春の雪解けが早く3月の半ばごろにいい水が川に流れていました。4月田んぼに水が入る頃には水が少なく代かきには少々苦勞をしたのですが、こまめな水の管理で順調に作業は進み23日には全部の田植えが無事に終わり、つかの間の休息をとっております。これからは梅雨の悪天候とにらめっこをしながら稲が順調に生長するように、田んぼの水がなるべく温かくなるように管理をしていきます。

### 4月～5月の作業内容

#### 1. 畔塗りあぜ(田んぼの補修)

田んぼを囲む場所はモグラや昆虫が穴を開けたり、稲作中にひび割れを起こして補修が必要となります。そのままにしておくと穴から水が流れでてしまい、それは肥料も一緒に流れることになる為田植え前にしっかりと土を固めます。



畔塗り (トラクターに専用部品を装着)

#### 2. 田起こし(トラクターで土掘り返す)

最近では春だけでなく、秋にも田起こしをする地域が増えました。秋に行うメリットとして、刈取後の稲わらが土中に埋まり微生物による分解が始まるので春だけの田起こしよりも有機物の補充がされ、春の田起こしの効果が良くなります。



田起こし

#### 3. 代かきしろ(田植え直前準備)

田植えの5-6日前に行う作業で、水を張って田起こしの時よりも土を細かくしていきます。かき混ぜることで肥料や雑草をしっかりと埋め込んでいき、土の表面を均一にすることで稲の生育にムラが出ないようにすることを目的としています。



代かき (表面を平らにする)

#### 4. 田植え・水の管理

田植え直前に水を溜めます。水を深くすることで土中に酸素がなくなり雑草が生えにくくなること、田植え直後はまだ朝晩の気温が低くなる地域も多く、水によって苗の温度を一定に保つ保温効果の役割もあります。



大型8条田植え機導入により省力化実現